



田嶋行男《暮れゆく雪山》1973年10月（田嶋行男記念館蔵）

東京都写真美術館総合開館5周年記念

山を愛する写真家たち

河野鮎蔵／志村烏嶺／辻本満丸／石崎光瑠／武田久吉／冠 松次郎／伊藤孝一／手塚順一郎／百瀬藤雄／穂刈三寿雄／大木 操／坂下隆栄／長谷川佐次郎
岡田紅陽／塚本閑治／田中 薫／勝山爲如／太田四郎／三浦敬三／田淵行男／内田耕作／船越好文／風見武秀／依田孝喜／柳田祐介／三木慶介／藤木高嶺
山田圭一／三宅 修／川口邦雄／白旗史朗／山下嘉一郎／白川義員／大森弘一郎／小森康行／内田良平／水越 武／安久一成／岩橋崇至／平野武利

日本山岳写真の系譜

Masters of the Mountains — A Genealogy of Japanese Alpine Photography

1999年9月7日(火) → 11月4日(木)

主催＝東京都写真美術館／毎日新聞社

後援＝環境庁／林野庁／(社)日本山岳会

協賛＝富士写真フイルム

協力＝サッポロビール／写真弘社／東武鉄道／プロラボクリエイト東京／三菱製紙



東京都写真美術館

日本の山岳写真は、明治20年代にその萌芽があり、現在まで90年以上にもなる長い歴史を持っています。日本は山国であり、高度こそ低いものですが、この狭い国土の大半は山で占められています。日本人は古くから山に深くかかわってきた民族であり、かつては山を神々の御座所と信じ、山岳信仰を源泉に登山が発達してきた歴史がありました。しかし狩猟や薬草とりなどの職業、また宗教登山などによらず、純粋に山を登ることそのものを目的とした近代登山は、必然的に裕福な知識層のスポーツであり、さらに一般への普及があまりない写真を加えると、山岳写真の範囲はごく限られたものでした。

山岳写真がようやく大衆の手に渡るのは、昭和に入ってからのもので、写真印刷による大量複製の技術や伝達を可能にしたメディアの普及により、アマチュア向けの解説書や写真集が出版され、数々の山岳同好会も結成されています。太平洋戦争の勃発でその活動は凍結されますが、戦後、人々の生活が潤いをみせる1956年の日本山岳会による世界第七位の高峰、ヒマラヤのマナスル登頂成功や、国体における登山の競技化などをきっかけに、日本にはかつてない山岳ブームがまきおこりました。海外遠征やロック・クライミングなど、活動の場所は多岐にわたる一方、高度経済成長にともなう自然破壊の反省から貴重な動植物の生態や保護へ向けられるカメラの眼もあり、カメラ機材の多様化とカラーフィルムの性能の飛躍的な向上とともに、山岳写真の表現は様々な展開を見せてきました。しかし、高度な登山技術と撮影技術とともに修得しなければならない過酷な条件は、多くの作家の進出を容易に許すものではありません。

本展覧会は山岳写真の黎明期から現在まで、国内外で精力的に活躍する日本人写真家40人を紹介します。原始の美しさをたたえる大自然と対峙する彼らは、単に「山に登る」という行為にとどまらず、科学者の眼と芸術家としての感性をたずさえ、常に山への愛をもちつづけてきました。映像として記録されたすぐれた山岳写真群を通して、山とかかわってきた人々の歴史や文化、自然の景観の美しさ、厳しさを再発見できれば幸いです。

観覧料

企画展券

一般 600 [480]円／学生 480円

小・中・高校生 300 [240]円

常設展との共通券

一般 1,000 [800]円／学生 800円

高校生 500 [400]円

[]内は20名以上の団体料金。都内の小・中学生は常設展の観覧は無料。
小学生未満、65歳以上、お体に障害をお持ちの方とその介護の方は無料になります。
学生の方は学生証をご提示ください。

開館時間＝午前10時～午後6時

(木・金のみ午後8時・入館は閉館の30分前)

休館日＝毎週月曜日

(休館日が祝祭日、振替休日に当たる場合はその翌日)



白旗史朗《シュカブラの彼方に 小仙丈ヶ岳から北岳》
1981(昭和56)年 早川町・南アルプス山岳写真館・白旗史朗記念館所蔵©Shirahata Shiro



依田孝喜《マナスル》より 水を飲むポーター
1956(昭和31)年 個人蔵©Yoda Shizue



坂下隆栄《キレット付近に行く登山者》
1935(昭和10)年頃 個人蔵©Sakashita Akira



大木 操《河童橋上のW.ウェストン夫妻》
1913(大正2)年8月7日(社)日本山岳会所蔵©Miyamae Toshiko



大森弘一郎《薄曇りから頂(羅臼岳)》
1981年 作家蔵©Omori Koichiro



白川義員
《マチャブチャリと月》
1968-70年
東京都写真美術館蔵
©Shirakawa Yoshikazu

■東京都写真美術館提供・東京FM特別番組

「東京写真物語」公開録音 第8回「自然の記憶」

日時＝1999年9月12日(日)

13:00 開場14:00 開演 当館1階ホール

出演＝田部井淳子、新井 満、手島里華 他

観覧ご希望の方はハガキに住所、氏名、年令、職業を明記のうえ「写真物語係」まで(8月31日必着)

■講演会(聴講無料・先着200名)

日時＝1999年10月17日(日)

午後2～5時 当館1階ホール

講師＝風見武秀(写真家)／水越 武(写真家)

■山岳映像上映会

各回14:00～(10月14日のみ18:00～)

(観覧料に含まれます・各回先着200名)

日時＝10月2日/10月9日/10月14日

上映＝『雪の立山・針ノ木越え』(1923年、伊藤孝一)

『黒部峡谷探検』(1927年、文部省)

『黒部峡谷』(1932年、塚本閑治)

『雪嶺に熊を狩る 猿人の生活』(1936年、塚本閑治)

解説＝塚本福治郎(フカモトプロ)

日時＝10月3日/10月10日/10月16日

上映＝『標高8125米 マナスルに立つ』(1956年、毎日映画社)

解説＝羽田栄治(映像プロデューサー)

■展示解説(フロアレクチャー)

毎月第2・4金曜日14:00～

※本展覧会は下記に巡回します

秋田市立千秋美術館 2000年4月中旬日～5月中旬(予定)

秋田県秋田市中通2-3-8

松本市立博物館 2000年5月中旬～6月中旬(予定)

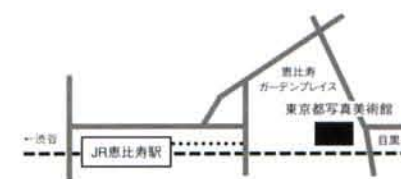
長野県松本市丸の内4-1

■次回企画展「アーヴィング・ベン 全仕事」

1999年11月11日→2000年1月23日



長谷川佐次郎《ヒマラヤの族》より カイラース山
1927(昭和2)年頃 個人蔵©Maeda Chizu



東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 Tel. 03(3280) 0031

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分 恵比寿ガーデンプレイス内

インターネット・アドレス

http://www.tokyo-photo-museum.or.jp

NTTハローダイヤル＝03(3272) 8600